

エルコムが第5回「ジャパン SDGs アワード」受賞 地産地消エネルギー循環モデルで海洋流出防止

株式会社エルコム(本社:北海道札幌市、代表取締役:相馬 督)は、12月24日、首相官邸において、岸田内閣総理大臣を本部長とするSDGs推進本部より、第5回「ジャパン SDGs アワード」における特別賞を受賞した。

e-PEP システムを通じて、有効活用が困難な漂着プラスチックや企業から排出される汚れや複合材など使用済プラをその場でクリーンエネルギーとして活用する、域内プラスチック循環モデルの構築することで海洋への流出防止及びマイクロプラスチック化抑制を行う取り組み。海ごみゼロ、CO₂排出抑制を目指して取り組んでいるクリーンオーシャンプロジェクト 2050 の一環。

クリーンオーシャンプロジェクト 2050



e-PEP システムを通じた地産地消のプラスチック=エネルギー循環モデル

地産地消のプラスチックエネルギーモデルについて

海岸に漂着するプラごみ、企業から出るプラごみ、どちらも有効活用が進んでいない。その原因は複合素材であることや、汚れのため、技術面やコストなどハードルが高いことにある。e-PEP システムはそういった、有効活用がされていないプラスチックを地域(排出企業)のエネルギーとして、現実的に有効活用するシステム。これにより、化石燃料の使用量を抑え、環境負荷を最小限に抑える「地産地消のプラスチック=エネルギーモデル」の構築を目指している。このモデルはこれまでの大型熱回収モデルとは違い、エネルギー変換効率が非常に高く、運搬が不要なので、リサイクル



工程の最小化、化石燃料の削減により年間でスギの木 2 万本の CO₂ 吸収量に相当する 290t-CO₂ の環境負荷低減が見込まれる(※)。すでに対馬市では漂着ごみが、札幌市の大手スーパーでは回収した食品トレーなどが、その場のエネルギーとして有効利用され、化石燃料削減に貢献している。 ※専門機関による分析結果。

今後の展望について

このモデルを通じて、分散してプラスチックの有効活用を行い、地域や島内のエネルギーを確保するだけでなく、体験型 SDGs ツーリズムによる地域の活性化や、参加者へのプラスチックごみに対する意識向上など、様々な波及に向けて、地域の自治体や関係団体、協力企業と計画を進めている。

また、生産から使用後の有効利用までのサプライチェーン全体で新たな循環モデル構築も展開中だ。



体験型 SDGs ツーリズムイメージ図

ジャパン SDGs アワードについて

ジャパン SDGs アワードは、持続可能な開発目標（SDGs）達成に向けた企業・団体等の取組を促し、オールジャパンの取組を推進するために、SDGs 推進本部（本部長：岸田内閣総理大臣、副本部長：松野官房長官および林外務大臣）が表彰する。NGO・NPO、有識者、民間セクター、国際機関等の広範な関係者が集まる SDGs 推進円卓会議構成員から成る選考委員会の意見を踏まえて決定し、2021年12月24日に首相官邸で執り行われた授賞式にて受賞した。



総理大臣官邸で執り行われた授賞式の様子

（左から松野官房長官、エルコム相馬嵩央、岸田内閣総理大臣、林外務大臣）

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/award/index.html>

エルコムについて

『Future for Earth～すべては次世代のために』をビジョンに地球環境や社会のニーズに寄り添い、独自の発想と技術力で新たなソリューション開発を行う創造開発型企業。

【会社概要】

会社名：株式会社エルコム

所在地：札幌市北区北十条西1丁目10番地1

代表取締役：相馬 督

設立：1991年4月5日

URL：<http://www.elcom-jp.com/>

事業内容：環境機器/産業機械開発・製造・販売

ELCOM
Earth & Life Communication

【本リリースに関する報道お問い合わせ先】

株式会社エルコム 環境ソリューション部 営業企画推進課 ドイル千賀子/内田章雄

TEL:011-727-7003 FAX:011-727-7004

e-mail：aqa@elcom-jp.com